

学長メッセージ

～ 人として生まれたならば ～

人として生まれたならば、心豊かな幸福を追求すべきです。人生は長いようで、振り返ってみれば、とても短い、と誰もが思い至ります。薔薇色の人生を歩みたいと願うのは、理想に焦がれる人々の本能です。けれども、花の色は有限であり無常であり、永遠の薔薇色はあり得ない。人生はそう甘くはないのです。大方の場合、身体の成長とともに知恵と経験を重ね、ようやく一人前を自覚したかと思えば、やがて体力も衰える頃となり、それまでは気づかずにいた、もしくは気づきたくなかった「悟り」を得る、それが人の一生というものでありましょう。一度きりの人生だから、これを無駄にはすまい。大切な一生を心豊かなものにしようではありませんか。

めぐり来る毎日を、私たちは如何に生きるべきでしょうか。それは人それぞれが自己の存在と向き合っ
て答えを出すべき人生の課題ですが、幸いにも私たちには過去からの贈りもの、すなわち過去の遺産が
あります。先人の遺物には敬意を払わなければなりません。そこには知恵もあり創造もあり、喜びや悲し
みや苦悩があります。過去は人類の経験知、経験則の宝庫です。過去を疎かにする人類に、よき未
来はありません。今をどう生きればよいか、その選択肢は無限と言えます。しかしながら、よりよき未来の
ために現在を活かすとなれば、膨大なる過去から学ぶことでありましょう。

高村光太郎の詩「道程」に ぼくの前に道はない ぼくの後ろに道は出来る とあります。なるほど私
たちの未来は確かに存在し、時は今を刻々ときざんで私たちの眼前に現れます。ただ、未来とは実はた
いへん虚ろな、はかない存在です。未来が如何なるものとなるか、今は分かりませんが、私たちが未来
を創る者たちであることは間違いなく、未来のかたちは、ほぼ今決まるに相違ないのです。よりよき未来
を望むのであれば、現在を生きる私たちの行動や意思が肝腎です。私たちの「今」は未来を創るもの
として極めて重要です。

人生は努力の積み重ねであります。努力を惜しんで未来の構想に参画しないのは、如何にも惜し
いことであると思います。学問は、よりよき未来を構想するためのものと信じてますが、過去を大切にす
る営みの典型でもあるでしょう。過去を大切にする意味を人生に見出し、心の豊かさを感謝する感性を
持ち続けたいと、若いときからずっと願い続けています。

平成 30 年 4 月 2 日

熊本県立大学 学長 半藤 英明